

みうらトーク&トーク 令和7年度第1回

<日時>

令和7年7月31日(木)

19時~20時

<テーマ>

今後の初声町を考えて

<参加者>

初声区長会

区長ほか33名

<概要>

初声区長会長 挨拶

お忙しい中、お集まりいただき、また、市長も来ていただき、ありがとうございます。平成18年からトーク&トークが実施されているということで、今年で20年目。初声区長会は、新型コロナの時期に3回休んだだけで毎年実施してきた。意識の高い区長が多く、気になることを色々と聞きたかったのだと思う。また新しい市長と一緒に、やっていければと思う。よろしくお願いいたします。

市長挨拶

6月29日から市長に就任した出口です。これからどうぞよろしくお願いいたします。

昨日ちょうど津波警報があり、混乱があったと思うが、ご協力いただき本当に感謝する。高梨会長からお話があったように、吉田前市長の時代から毎年トーク&トークを続けてられるということで、素晴らしいことだと思う。今回、自分が市長になり、取り止めるかという話もあったが、ずっと続けてきており、今年もお申し出いただいたということで開催することとして、職員も心配してたくさん出席してくれた。これから市民に開かれた市政ということで、こういった場を継続したいと考えているが、いろいろと工夫して新しい形でやろうと思い、職員と相談している。今後、新しい形になってもご理解いただきご参加いただければと思っている。

そういうことでトーク&トークとしては今回が最後となる。ぜひ皆様と活発に議論させていただき、有終の美を飾りたいと思う。よろしくお願いいたします。

<担当職員より6つのテーマについて説明>

市長室担当職員

項目1の引橋の市民交流拠点整備事業について。引橋の県立三崎高等学校跡地における市民交流拠点整備事業については、公共的機能と民間施設を段階的に整備し、市民交流拠点を形成することを目指し取り組んでいる。

このうち、以前、中段のグラウンドがあったB2地区では、新庁舎の建設を行っている。新庁舎の建設は、令和5年9月に工事請負契約を締結し、詳細設計と許認可手続を進めた。その後、令和7年1月に工事請負契約の変更契約を締結している。令和8年3月13日であ



った当初の工期を、令和8年11月13日に変更したが、これは、建設現場の働き方改革により、4週8閉所が厳格化されたこと等により、工事日程を見直したため。変更契約後は、令和7年1月下旬に近隣の住民の皆様への工事説明会を開催し、令和7年2月に新庁舎の建築工事に着手した。現在は杭工事が完了し、鉄骨の建方工事に向けて基礎工事を進めている。今後も周辺地域の安全に配慮し、令和8年11月の工事完了を目指して取り組んでいく。新庁舎には、市民活動に利用できる会合室や多目的スペース等が整備されるので、新庁舎完成後は、ぜひ皆様にご利用いただければと思う。

また、新庁舎の建設のほかに、小網代の森入口交差点から地区内に整備した市道を延伸整備し、入ノ沢地区との通行を確保する工事を昨年度から実施しており、令和7年8月末までに完成する予定。近隣の皆様には、引き続きご迷惑をおかけすることもあるかと思うが、ご協力をお願いする。

その他、以前のグラウンド上段であった場所に、図書館と賑わいをもたらす民間施設を合築した建物を整備する計画。地域や年代を越えた人々の活動・交流を促進するとともに、市の活性化に繋がる土地利用を図るべく、今後も取り組んでいくので、ご理解、ご協力をよろしくお願いします。

防災危機対策室 担当職員

昨日、カムチャッカ半島沖の地震で津波警報が発令され、皆様大変な一日を過ごされたと思う。そのことにも関連する内容について説明させていただく。

項目2の地域防災について、防災危機対策室から説明する。比較的発生確率が高いとされている南海トラフ地震が発生した場合、三浦市の震度と津波は、震度5弱、最大6mの津波が地震発生後29分で到達する予測となっている。住宅の耐震基準が昭和56年の建築基準法の改正により、昭和57年以降の建物は震度6から7の地震でも倒壊せず、昭和56年以前の建物は震度5で倒壊しない構造となっている。このことから、南海トラフ地震が発生した場合、津波の被害を受けた方達は避難所で生活し、津波の被害を受けなかった方達は自宅で在宅避難となる可能性がある。

在宅避難となった場合を考えると日頃からの備えが重要となる。例えば食料の備蓄やトイレで使用するビニール袋等の備蓄がある。食料の備蓄については、ローリングストックという方法があり、冷蔵庫の中を食料等でいっぱいにしておいて、使用した分の食料等を買って足していく方法。トイレで使用するビニール袋については、凝固剤等と一緒に備蓄することにより、匂いを防ぐ効果がある。

また、避難所で生活することとなった場合、各避難所には各区の役員の方達等で組織する避難所運営委員会があり、避難所運営マニュアルが作成されている。避難所が開設されたら、避難所運営委員会の方達の指示に従って、皆様全員で協力しながら、運営を行っていくことになる。

その他、各区においても協力しながら助け合う行動が重要となる。各区で実施する防災訓練や避難所運営訓練についても継続して毎年実施することが重要。訓練内容等に関する相談は防災危機対策室に連絡をいただければ、一緒に考えていきたいので、よろしくお願いします。

**都市環境部都市
計画課担当職員**

項目3の西海岸線道路の計画について。西海岸線道路は、国道134号や県道26号（横須賀三崎）のバイパス機能を持つ道路として、渋滞の緩和や、地域、経済の活性化、災害時には緊急輸送路が確保できるようになる、といった効果が期待されている。しかし、国道134号の三崎口駅付近から油壺にある県道216号までの約2.5kmが未整備の区間となっていて、早期の整備が望まれている。この未整備の区間については、事業をすすめている神奈川県が、平成28年度から小網代湾やその周辺において、環境調査をはじめ橋梁の形式の検討や現地の地形、地質など道路の設計に必要な調査を進め、今年5月に小網代湾やその周辺に調和できるような橋梁のデザインコンセプトなどをとりまとめたところである。

また、今年度から事業用地の取得に着手する予定。市としても、引き続き早期に整備してもらえるように要望するとともに、道路の設計や工事についての相談、住民の皆様への説明について、積極的に調整を行っていく。県も早期整備に向け鋭意努力しているので、今後とも、住民の皆様には、事業の円滑な推進にご協力をお願いする。

**都市環境部都市
計画課担当職員**

項目4の三浦縦貫道路の延伸について。三浦縦貫道路は、横浜横須賀道路の衣笠インターチェンジから三崎口駅付近を結ぶ約9.4kmの幹線道路で、三浦半島地域の交通利便性の向上や、産業・経済・観光における交流・連携機能の強化による、地域の活性化などが期待されている。

この道路は、衣笠インターチェンジから国道134号の横須賀市林までの区間が、平成12年に有料道路として開通し、これに続く三浦市道14号までの区間が、令和2年に一般道路として開通した。この開通により、周辺道路の交差点の渋滞緩和や、三浦市から横須賀市への移動時間の短縮などの効果が表れており、未整備となっている三浦市道14号（高円坊付近）から国道134号（三崎口駅付近）までの約2.5kmについても早期の整備が望まれている。この未整備の区間については、現在、神奈川県が道路のサービス水準を維持しながらも事業費の縮減が図れるよう、道路の縦断線形の見直しを行っている。

市としても、引き続き、早期に整備してもらえるように要望するとともに、道路整備に関する相談、住民の皆様への説明について、積極的に調整を行っていく。県も早期の事業化に向け鋭意努力しているので、今後とも、住民の皆様には、事業の円滑な推進にご協力をお願いする。

総務部担当職員

項目5の（仮称）三浦しみんひろば整備事業について。（仮称）三浦しみんひろば整備事業については、半次の下宮田市営住宅跡地を活用することができないかということで検討を行っている事業になる。

民間の力も借りて、市の財政的な負担を抑えた事業が行えないかということで、昨年度に事業化可能性調査を実施し、事業進出の可能性があると回答いただいた事業者4社から事業提案を受けた。しかしながら、提案のあった事業内容は、当該用地が市街化調整区域であることから土地に対する制限があり、施設を建設することは難しく、収益性も乏しいというものであった。事業者からは、事業化するための条件として、給排水等のインフラ整備は市側で整備してほしいと、市の負担が大きい提案が示されており、市の財政状況を勘案すると非常に厳しい状況である。

また、現在借用している土地については、事業化に向け、将来的な市の費用負担を軽減

するため、借り続けるのではなく購入する考えであるが、市の財政状況も厳しい中、地権者と慎重に協議を進めている。

今後の事業の進め方としては、事業化可能性調査では、市の負担が大きい結果であったことから、事業の見直しを含め、改めて検討していきたい。将来的な市の費用負担を考えると、借用している土地を地権者へ返却することも選択肢の一つとして捉えている。これから地権者との協議を慎重に重ね、スピード感も持って対応していきたいと考えている。

**都市環境部都市
計画課担当職員**

項目6の入江の再開発について。入江地区は、平成26年から令和3年にかけて、「カインズ三浦店」、「ノジマ三浦店」、「ヤオコー三浦初声店」など、複数の商業施設がオープンし、多くの市民が訪れる活気ある地区となっている。一方で、「カインズ三浦店」の西側には、まとまった未利用地がある。この土地は、平成28年に株式会社プロパストから株式会社スマートコミュニティに土地の所有権が移り、平成30年9月には、開発敷地を取得したことを理由として、三浦市まちづくり条例に基づく承継の手続きがされ、事業の全体承継とともに、開発事業の名称は「(仮称) スマートコミュニティ三浦計画」となっている。

現在は、事業承継した開発計画を踏まえ、具体的な事業計画を整理・調整し、新たな計画策定に向けて取り組んでいると聞いている。今後、計画案の具体化に応じて、三浦市まちづくり条例に基づく手続きが開始されていくものと捉えているが、事業の進捗に変化が生じた際には、周辺住民の皆様に対し、事業者より説明させていただく場が設けられるものと認識している。

説明は以上となるが、このテーマは昨年度も挙げていただき、説明内容も昨年度とほぼ同様のものとなる。本事業は、民間事業者が行うものであり、昨年度から事業者と市の間で具体的な協議等は進められておらず、事業計画が進んでいるという報告も事業者から市に対して特に無いため、昨年度と同様の説明となっているものである。

<質疑応答>

市長

それでは、項目の1～6までの説明が終わったので、意見交換に入る。最初に事務局から説明があったとおり、どの項目についての意見か言っていただき、ご意見・ご質問をお願いしたい。

市民

項目2の地域防災について。昨日、初声中学校に避難所が開設されたが、どのくらいの方が避難してきたか。

市長

初声中学校は、確か最大で200人弱だったと思う。正式に避難所として開設したのは夕方だが、それより前の時間帯が多く、ピーク時にはそのくらいの人数だった。

市民

昨日、NHKの津波関連の放送でテロップ画面に三浦市の避難指示が42,583人とか市の人口より多い人数が出ていて自治体の発表となっていたが、市では把握していたか。

市長

出ていたのは承知している。市で発表した人数ではなく、どのように発表されているかは把握していない。

市民 自分は離れたところに親戚がいるのだが、大丈夫かと連絡が多くあった。誤った内容で多い人数が表示されていると余計に心配になると思うので、キチンと対応していただいた方が良いと思う。

市民 昨日の避難所の開設が16時だった。横須賀市は昼前に開設していた。横須賀市の人と話をしたが、子供達も手伝ってくれたというような話をしていた。三浦市は、なぜ、そこまで遅くなったのか。

市長 これについては、市役所内部でもだいたい議論をしたところである。まず、人命を最優先として、高台に避難をしてもらいたいというメッセージをシンプルに出した。避難所を開設してアナウンスすると、避難所へ移動する際に海拔の低いところを通る可能性があり、安全面でリスクがあるということで避難所をすぐに開設しなかった。

ただ、今回の反省点も踏まえて、避難所開設のスピードについても検討しなければならない。要するに高台に避難した方が避難所へ移動する際に海拔の低いところを通らなければ良いので、遠回りになっても海拔の低いところを避けて避難所へ移動していただくようアナウンスするなどして、開設を早めることができるのではないかと思いますので、検討したい。

市民 提案だが、ちょうど初声区長会で津波避難タワーを視察してきた。藤沢市でも避難タワーができて、報道で見たが江ノ島に来ていた外国人などの観光客が利用していたようだ。三浦市でも黒崎の辺りに避難タワーを建てるのはどうか。夕方、初声中学校の避難所を見に行ったが、10人くらいしかいなかった。農作業をしている人も大勢いて周知の問題も感じた。黒崎の近辺は市内でも最も低い場所の一つで、海拔が2mくらいしかなく3m程度の津波が本当に来たら被災する。避難所というよりも、一時的に逃げるができる場所として避難タワー建設の計画などを提案する。

市長 現時点では計画はないが、貴重なご意見としてお聞きした。

市民 避難所の件で、自分は直接聞いていないが、防災無線で避難所のアナウンスがされた際に、飲み物・食べ物は持参するように放送されたと聞いた。せめて飲み物くらいは市で用意できないか。

市長 その件についても、庁内で議論があった。もちろん市でも備蓄はしている。ただ、まずはご自分達で準備できるところはやっていただき、もしも避難が長期化するようであれば、市の備蓄を提供する。そのような段取りで考えて、アナウンスさせていただいた。

市民 やはり防災の件でお聞きする。沓形区は整備された広い道路が通っているが、車道ではない細い路地が縦横に通っている。そういった小道の出入口に車止めの鉄柵があり、公園の入口も同様である。車イスの方は非常に不便で、障害のある方に通るなどと言っているよ

うなもの。昨年から市の担当に見てもらい、鉄柵の撤去と段差解消をお願いしている。昔の基準では、そのような作りにするのが一般的だったようだが、やはり緊急時にも不便。予算もかかることだが、障害のある方の避難のことなども考えて、ぜひ改善していただきたい。

市長

ユニバーサルデザインという点からも、身体の不自由な方の通行は非常に重要な視点。しっかり検討させていただきたい。

市民

細い路地や公園に、車が入らないように作ったもののようだが、およそ車の入れないような路地の入口にもある。不便なのでお願いしたい。

あと、昨日困ったことは情報が入ってこないということ。横須賀に行っていた知人は電車が止まって帰れなくなり、自分はベイシアに弁当を買いに行ったら臨時閉店していた。何がどうなっているのか、自分たちの動きに関わるような情報が必要だと感じた。区長のところにも情報がないのだから市民の皆さんも情報が無かったと思う。テレビなどで後から情報を知ったので、テレビで流れるような情報を市の方でも早めに発信してもらいたい。避難所も大切だが、やはり一番は情報ではないかと思う。初声中学校の避難所に行ってみたが、避難所を開設している表示も無く、どこの教室が避難所になっているのかも分からなかった。そういったお知らせも情報だと思う。ほぼ初めての仕事で大変だったと思うが、現地に行ったら、ここが避難所です、どこの部屋に行ってください、ということを知らせる、そういった情報も大切だと感じた。

市長

情報発信にも課題があると認識している。市ではLINEでの情報発信やご意見いただいた避難所の看板など、緊急時に紙を配るわけにはいかないので、できる方法でしっかり周知していくことが重要。市内の公共交通機関などの情報は、事業者の情報を確認して市で発信することも可能ではないかと思うので、しっかり検討していく。

市民

区長は、市に携帯の電話番号やメールアドレス、LINEなどを登録しているので、そういったものを共有してもらい、メールなどで連絡してもらえればと思う。

市長

最近は、LINEを使う方が多いので、ぜひ市の公式LINEを登録していただければと思う。

市民

昨日、多くの情報が三浦市のLINEでも流れている中で、市の開催する会議などの中止の情報は流れていたが、今話があった交通機関やスーパーなど生活や避難に密着した部分の情報は流れていなかった。

市民

やはり防災に関することで、テレビを見ていても津波が実際にどこまで来ているのかが曖昧だった。自衛隊は、地震が発生すれば、海上自衛隊のP-3C哨戒機が飛び、また、普段は領空侵犯に備えている航空自衛隊の戦闘機が飛んだり、東日本大震災の際は迫りくる津波の映像を陸上自衛隊のヘリが撮影しており、津波の情報を持っている。そのような

情報は市の防災担当に届いているのか。もし情報が届いていないようであれば、情報伝達は非常に大切なことであり、防衛省に要請するなどして入手して、活用することが重要ではないかと思う。そのような情報があれば、例えば、三浦市にはどのくらいで津波が到達する見込みだから、その時間帯には海岸線に絶対に近づかないように防災無線で市民に知らせたり、また、高台にいる人が避難所に移るのは、津波の第1波と第2波の間に移動してもらうのが比較的安全など、正確な情報を基に市民に知らせることが重要だと思う。テレビの情報は非常に曖昧で、既に到達しているのかもよく分からなかったなので、ぜひ検討していただきたい。

**防災危機対策室
担当職員** 自衛隊の関係では、陸海空全てで航空機やヘリなどを持っていて、情報があることは認識しているが、その情報を市に提供してもらうような確約は無い。今、話を聞いていて、もっともな話だとは思う。現在は、市の防災担当に陸自のOBがいて、武山の駐屯地などとも防災に関する情報共有などもしている。まずはそのようなところと協議して、情報をいただけるようであれば連絡体制など検討したい。

市民 この近辺でいうと、やはり海上自衛隊の横須賀地方総監部と連携できれば、情報共有ができるのではないかと思う。

**防災危機対策室
担当職員** 海上自衛隊とも、ここ数年交流ができています。災害時にはあらゆる情報を入手したいので、市から提案して、情報を入手できるようであれば協議していきたい。

市長 今は情報を入手していないが、今後の検討ということでご理解いただきたい。

市民 防災に関する件で、昨日テレビで津波の高さが表示されていたが、他の地域は高さが具体的になくても、三浦市は夜になっても調査中のままだった。市で調査を行っているのか、それともどこかの機関で調査しているのか。

市長 市の調査ではないと思う。

**防災危機対策室
担当職員** 油壺など市内に確か2か所ほど潮位観測をしている場所があり、そのデータを国でまとめているものだと思う。明確な潮位の変動があれば、例えば何十センチなどと表示されたと思うが、明確な変動が確認できないなどの理由で長時間にわたって調査中となっていたのではないかと。今後、同じような状況で明確な潮位変動があれば、市にも県を通じて情報が来るようになっており、具体的な数値で表示されることになるが、今回は三浦市に関しては、明らかな潮位変動が確認できなかったということだと思う。

市民 項目5のしみんひろばの件で、先ほどの説明が少し聞き取れない部分があったが、あの場所は市街化調整区域で、市街化調整区域に市営住宅が建っていたということでしょうか。

総務部担当職員 そのとおりである。

市民 先ほどの話では、返還も含めて検討ということだったが、いつまでに活用の見通しが立たなければ返還するなど、期限を決めた方が良いのではないかなと思う。

市長 これまで検討して、事業化していくのが難しいという経緯もあり、土地を返還することも含めて、あまり時間をかけずに、ということで庁内では検討している。ただ、地権者さんとの協議もあることなので、現段階では明確な時期は決まっていない状況である。

市民 確か、事業用地には、借地と市の所有地も含まれていたと思う。

総務部担当職員 市営住宅が建っていた場所は全て借地で、それ以外に市の所有地で、駐車場で利用している土地がある。

市民 その辺りをしっかり整理して、すみ分けして対応を検討する必要があると思う。

市民 下宮田の市営住宅跡地については、災害が起こった時に、避難所ではなく、仮設住宅を建てる用地に使ったらどうか、という意見が以前あった。借地ということを知らなかったもので、電気ガス水道が全部通っていた土地で、もっともな話だと思った。区長として、なぜ市営住宅の跡地はあのままなのか、かなり質問されることがある。何かプランが無いと市民の皆さんが納得しない。仮設住宅は、いつ災害が起こるか分からないのに、土地を借り続けているわけにはいかないと思う。

総務部担当職員 賃借料が年間 600 万円ほどかかる。

市民 賃料がかなりかかっており、何も動きがないと、自分たち区長も色々と聞かれる立場。やはり早めにプランを出さないと皆さんが納得できない。

市長 明確な方針を早めに出していきたい。

市民 検討中の段階でも、情報を発信していく必要があると思う。何をやっているんだ、ということになる。

市民 若い人達は、今はSNSで情報が早い。そういったことから、情報発信が必要な時代になっていると感じる。

市民 自分は、子ども会指導者連絡協議会の会長をやっている。前市長の頃に、こどもまんなか市民会議を子ども達と一緒にやってきて、その中で、項目5の市営住宅跡地についてどのように有効活用しようかという議論をしてきた。この土地を返還することになった場合には、会議で話し合われて、どんなものを作っていったら良いか、など子ども達からも出していた意見は無駄になってしまうのか、それとも別の場所で検討していくのか、方向性を

お聞きしたい。

市長

下宮田の市営住宅跡地は、現在、地権者の方と協議中であり断言することはできないが、もし返還することになった場合には、その場所で作ることはできない。ただ、こどもまんなか会議でせっかく話し合っていたいただいた内容なので、どこか他の場所で反映させることができないか、持ち帰って検討したいと思う。

市民

同じ件で、沓形区では、ほとんど話題にならない。土地があると、何か作ったり、何かやらなくては、という方向に話が行きがちだと思うが、引橋の市民交流拠点整備を行っている中で、市の限られた財源で、本当に市営住宅跡地で何か事業をやらなければならないのか疑問がある。本当に必要なプロジェクトがあり、絶好の土地があったから実施しよう、ということなら良いのだが、自分の理解ではそのような状況ではないと感じる。土地ありきで、何かやらなければならないということであれば、本当に必要性があるのか、と感じる。

市長

ご意見に賛同するところはある。やはり年間 600 万円の賃料がかかっている、市の財政が厳しい中で、子育て支援や高齢者支援など、市としてまだまだ課題が多くあり、毎年出ていくお金を他に回すことができるのであれば回していく必要があるのでは、ということもあり、庁内でも議論しているところである。

市民

項目の 3・4 の道路の件に関連して、三崎港から引橋は 1 本しか道路が無い。災害時に自衛隊などが使えば、三崎の人達は何もできなくなる。国道 134 号線や県道以外に三崎港から横須賀に抜ける道をもう 1 本通す考えはないか。

市長

まさに、項目 3・4 の西海岸線道路と三浦縦貫道路の延伸が、三崎港から横須賀に抜けるもう 1 本の幹線道路になる。時間はかかるが、今ある引橋から三崎港までの県道とは別に、二町谷の方から市の西側を通して三崎口の辺りで三浦縦貫道路に繋がる形の計画となっている。

市民

入江の再開発について、先ほど説明があり、民間事業者が行う開発で事業者から計画が出てこないということだった。周辺はカインズやヤオコーが進出してきて、それは良いことだが、現在のスマートコミュニティの所有地は、長期間開発されずに残っている。事業者が行う開発だから、というのは正論だとは思いますが、計画が出てこないならば、なぜ出てこないのか、また、どのようにすれば出てくるのか検討して、市側から提案することもできと思う。

入江を埋め立てた場所で、災害時に問題があるのかもしれないが、それなら、どういう形であれば開発ができるのかということを検討し、市側から提案して事業者と協議することで、何か新しい形も見えてくるのではないかなと思う。

そこまでいくと、市の職員が提案するというよりも、市長がどのように考えてアプローチしていくかが重要だと思うが、市長はどのように考えているかお聞きしたい。

市長

入江の再開発については、民間の事業者によって宅地などの開発がされる計画という認識で、まだ事業計画の詳細は把握できていない。ただ、お話があったように民間の開発ではあるが、市の発展のために、どのような開発が考えられるか把握して、市を代表して積極的に事業者を検討をお願いしていくということはやれることだと思うので、今後計画を把握して、前向きに検討していきたい。

市民

開発されていない現在の状況も静かで良いところではあるが、それだけでは良くない。以前は、日本では富士山信仰があり、高いビルを建てて富士山が見えて、富裕層を取り込めれば、というような流れの話があったと思う。

市民

市長はまだ、これまで市に提出された計画、図面なども見ていないか。

市長

この場所については、まだ確認できていない。

市民

市長にも、これまでの経過も把握していただき、市として取り組んでいただくと、初声町にとっては良いのではないかなと思う。

また、津波が来たら被害を受ける場所なので、防災の対応もできる津波避難ビルなどの観点も含めて事業者と協議をする必要があると思う。まちづくり条例なども絡んでくるが、そういったことも併せて検討を進めないと、また所有者が変わっても逃げられてしまうのではないかな。

市民

同じく入江の再開発の件について。土地の所有が西武からプロパストに移った時に、地元で開発委員会を立ち上げた。その後、スマートコミュニティに所有が移り、開発は止まっているが、まだ委員会は存続していて、事務局からも新しい区長に連絡すると聞いている。

周辺には多くの住民や関係者がいて、開発に関連したことを事業者などに対して、1件1件話をすると大変なので、一旦開発委員会でクレームなどを受け止めて、開発委員会から事業者などに話をすることになっている。過去には、初声高校から試験期間中の工事の騒音について相談があり、委員会から事業者に話をし、事業者も試験の時間には大きな音が出る工程は止めてくれた、というような実績もある。

また何か開発の話で動きがあれば、開発委員会はまだ存続しているので、皆さんもそのような認識でお願いしたい。

市長

それでは、本日は貴重なお時間をいただき、感謝する。1時間という短い時間ではあったが、皆様と交流できて様々なご意見をいただいたので、持ち帰り、しっかりと検討して、反映していきたいと考えている。

また、新たにこのような意見交換の場を作るので、ご参加いただければと思う。本日はありがとうございました。

※公表については了承を得ております。